

# 兵庫の林業

2018. 4 No. 284



旧「兵庫県林業会館」

新「兵庫県林業会館」イメージパース（平成30年3月2日記者発表資料より）

## もくじ

就任のご挨拶	1
企業の森づくり活動の紹介	2
平成30年度	
林務課予算の概要	3
豊かな森づくり課予算の概要	5
治山課予算の概要	7
鳥獣対策課予算の概要	8
△普及だより▽西播磨地域における	
森林情報デジタル化の取組	9
県立森林林大学校研修事業の実施	10
支線林道の整備	11
狩猟免許試験のご案内	12
技能講習会等のご案内	12
兵庫の巨樹・巨木	(裏表紙)
題字	兵庫県知事 井戸敏三氏

## 表紙の写真

「新・兵庫県林業会館イメージパース」  
県森連、県木連、県治山林道、県  
種苗の4団体は、設計施工一括プロ  
ポーザル方式で業者選定し、「竹中  
工務店・大和ハウス工業特定建設工  
事共同企業体」による林業会館建替  
え工事を行うことになりました。

既報のとおり、林野庁、環境省、  
兵庫県の補助を受け、建築費約6億  
円、工期は平成30年12月末までです。  
取壊し工事が2月で終了し、去る  
3月6日には更地となった建設予定  
地において、工事安全祈願祭が執り  
行われました。

延床面積約1,500㎡で、主要構  
造にCLTパネルを使用した国内初  
の「CLT+鉄骨ハイブリッド構造  
地上5階建」の都市型耐火オフィス  
ビルとして、注目を集めています。

## 森林参事就任のご挨拶

太田 雄一郎



このたび、森林参事を拝命しました、太田でございます。

平素は、森林行政の推進につきまして、ご理解とご協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

森林参事の所掌事務は、林務課、豊かな森づくり課、森林保全部及び治山課の業務の総括とされていまして、皆様には一層のご指導とご鞭撻をよろしく願ひします。

さて、本県森林面積の4割を占める人工林は、利用可能とされる46年生以上のものが7割を占め、資源の充実が進みました。このため、大型製材工場や木質バイオマス発電所の稼働により大幅に拡大した県内の原木生産量の需要に応えるため、路網整備等による供給体制の強化を今後なお一層図る必要があります。また、昨年度制定された県産木材利用促進条例に基づくCLTの普及拡大等により、

資源循環型林業の構築を目指して進めていこうと考えています。

一方、地球温暖化の影響ともいわれる近年の局地的に猛烈な豪雨では、県内の土石流の発生件数のうち90%を超える件数が人工林流域で発生しています。人工林の立木蓄積量の増加により、斜面がひとたび崩壊すると土砂と大量の流水が流出するリスクが高まっていることから、今年度から始まる第3次山地防災・土砂災害対策計画により、治山による流水・土砂流出防止対策を強化します。

また、人工林のみならず天然林も含めた豊かな森づくりとして、県民総参加で進める「新ひょうごの森づくり」や県民緑税を財源とする「災害に強い森づくり」は、森林の保全・再生の課題を解決するための本県独自の取り組みです。これに加え、森林現場におけるさらなる諸課題に対応するため、平成31年度から国の森林環境譲与税（仮称）の譲与が始まります。そのため、市町及び県が適切に対応できる仕組みの検討が必要であり、林業と治山の両立する観点から議論されることを期待しています。

今後とも、森林政策の推進に微力ながら努力して参ります。どうぞよろしく願ひします。

## 治山課長就任のご挨拶

金子 哲朗



このたび、治山課長を拝命しました、金子でございます。

平素は、本県の森林土木行政の推進にご理解とご協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

本県では、平成26年8月に丹波地域を襲った豪雨災害の復旧を進めてまいり、昨年6月に復旧記念式典を開催することができました。復旧工事に際し、土地所有者や地元関係者の皆様方のご尽力に深く感謝申し上げます。

昨年は、7月に九州北部を中心とした豪雨が発生し大量の流水が土砂とともに流下し甚大な被害をもたらしました。改めて、自然の脅威と、森林の持つ多面的機能の維持向上により山を治める治山対策の重要性を再認識させられました。このことを踏まえ、治山事業では、人家等に被害を与える恐れのある溪流、人工林率の高い谷筋や0次谷の存在する山腹斜面のう

ち流水被害や山腹崩壊の恐れがある箇所に対して「第3次山地防災・土砂災害対策計画」（平成30年～35年）を昨年度策定し、この計画に基づき治山ダムの整備を推進します。また、過密化した保安林での森林整備や、施工から数十年が経過し機能が劣化した施設の補修や機能強化等による長寿命化対策、さらには山地災害危険地区の情報発信や住民と協働した防災マップの作成等ソフト対策にも取り組んでいきます。

また、林道整備については、森林資源の効率的・継続的な利用を進めるため、「新ひょうご林内路網一〇〇〇km整備プラン」に基づき、開設中の森林基幹道2路線において、予算の集中化、コスト削減等の工夫により開設を促進し、事業効果の早期発現を図ります。さらに木質バイオマス燃料等の新たな木材需要の増加を踏まえた木材安定供給を強化するため、路網拠点整備の拡充を図ります。これまでの路網拠点整備に加え、既設林道と作業道をつなぐ大型トラックが通行可能な林業専用道の整備を推進します。

今後とも、皆様方の一層のご理解とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

## 豊かな森づくり課 森林保全部長就任のご挨拶

村上 晴茂



このたび、豊かな森づくり課森林保全部長を拝命しました、村上でございます。

平素は、保安林制度及び林地開発許可制度の適正な運用や森林病害虫被害対策の推進など、森林保全部所管の業務にご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。近年、全国各地で集中豪雨が頻発しており、山腹崩壊に伴い発生した流水が下流に大きな被害を与えるなど、激甚化、多様化する山地災害への対応が課題となっております。

このような中、「森を守る」森林保全に対する期待もますます高まってきているところです。

保安林制度については、治山事業施行に伴う保安林の指定のほか、原木の安定供給や間伐の推進を目的とした指定施業要件の変更に適

切かつ速やかに事務を進めていきます。

林地開発許可制度につきましては、特に再生可能エネルギーの固定価格買取制度（FIT）を活用した太陽光発電施設の設定に係る相談・申請案件が県南部を中心に増加しています。土砂災害や水害防止等の観点から適正な申請に向けた指導や違反開発の未然防止に向けた巡視の徹底に努めます。

松くい虫被害対策については、薬剤の空中散布による予防対策を安全に配慮の上、箇所を厳選して実施している一方、ひょうご元気松（抵抗性アカマツ）の植栽事業など薬剤散布以外の対策を進めています。

ナラ枯れ被害は、大阪方面からの被害拡大により被害量が昨年度から倍増し過去最大となりました。今後、さらに播磨方面への被害拡大が懸念されるため阪神地域の被害先端地帯で重点的な防除対策を実施する「ナラ枯れ防止作戦」を展開します。

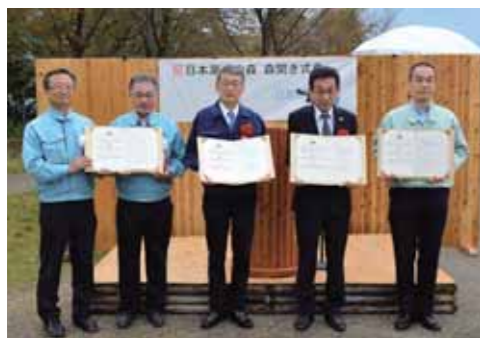
森林・林業に携わっておられる皆様方には、様々な場面でご支援をお願いすることになると存じますが、今後とも一層のご指導とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

## 企業の森づくり活動の紹介「日本海水の森」

株式会社日本海水

株式会社日本海水は国内唯一の複数の製塩工場を有し、国内トップシェアを誇る「塩」のリーディングカンパニーです。その主力工場である赤穂工場は、間伐材等の木質チップを使用した、木質バイオマス発電にも取り組んでいます。電気は、製塩に利用されるとともに、地域の工場・家庭にも供給されています。

このたび、この木質チップの主たる供給源の地でもあり、また県下有数の森林地域である宍粟市（県立国見の森公園）において、企業の森づくり活動を開始しました。



企業の森づくり協定書披露



県立国見の森公園での森開き

「海を護ることは山を護ること」を目標に適切な山林管理を通じて海の環境保全も含めた総合的な環境保全に取り組んでいます。また森づくり活動を通じて、社員の環境意識の醸成、人材育成及びCSR活動の場の創設を目指します。

## 平成30年度 林務課予算の概要

県内民有人工林約22万haのうち、伐採・利用が可能とされる46年生以上の森林が約16万haと71%を占めるなど、森林資源の成熟化が進む中で、県では、建築用材と木質バイオマス燃料用材の2本柱で木材利用を進めています。

このような中、平成29年6月に議員提案による「兵庫県県産木材の利用促進に関する条例」が制定され、同条例に基づき、取組方針や目標等を定めた指針を平成30年3月に策定しました。

今後は、条例制定を契機として、川上から川下までの関係者の連携、協働により、県産木材のさらなる利用拡大に取り組みます。

また、平成30年9月に県立森林大学校を本格開校するとともに、専攻科に加えて研修科の本格実施により、森林林業の担い手の育成に総合的・体系的に取り組めます。

さらに、国のTPP関連農林水産業対策補正予算を活用して、地域材の競争力強化に向け、原木を安定的に供給するための間伐、林内路網整備、高性能林業機械の導入を進めます。

### 凡 例

【緊急】：森林林業緊急整備事業（県事業名）

㊦：平成29年度県補正予算措置分

【新】：新規事業

### 1 多面的機能の発揮に向けた森林整備

#### (1) 多様な森林の整備

人工林のうち、育成単層林については、気象災害等に配慮しつつ、間伐等を推進するとともに、地形や地質等により条件の悪い森林については、針広混交林化や天然林へと誘導する等、多様な森林の整備を図る。

地域森林計画策定事業	15,640千円
造林事業	955,000千円
造林事業	㊦15,000千円

【緊急】間伐 ㊦320,015千円の内数(TPP関連)

重要水源林機能高度化事業	22,000千円
【新】コンテナ苗生産基盤施設等整備事業	1,000千円

#### (2) 施業集約化の促進

森林施業の集約化を促進するため、森林経営計画の作成や森林境界の明確化等を支援する。

森林整備地域活動支援事業	102,951千円
--------------	-----------

#### (3) 生産基盤の整備

(協)兵庫木材センターを含めた製材工場等に必要260千㎡/年の原木に加え、木質バイオマス発

電向けの燃料用として見込まれる170千㎡/年を合わせた430千㎡/年の原木を低コストで安定的に供給できる基盤を整備するため、森林施業の団地化、林内路網の整備、及び機械化などを支援する。

【緊急】林内路網整備

㊦320,015千円の内数(TPP関連)

森林資源活用システム整備事業 72,684千円

県産木材利用促進特別融資事業

(高性能林業機械等導入資金) 100,000千円

【緊急】高性能林業機械等導入

㊦320,015千円の内数(TPP関連)



#### (4) 林業技術の普及

林業普及指導員による林業技術の普及指導活動や指導林家等・山村リーダー研修等を通じて、地域リーダーや後継者を育成する。また、市町村森林整備計画や森林経営計画の作成実行を技術面で市町を支援する「地域森林総合監理士（フォレスト）」を育成する。

林業技術普及費	4,946千円
---------	---------

### 2 林業の担い手の育成

#### (1) 兵庫県立森林大学校の本格開校

森林経営から森林セラピーや獣害対策に至るまで、森林に関わる人材を幅広く育成するため、平成29年4月、県立森林大学校を宍粟市一宮市民局庁舎内に開校し、本年9月に同校を宍粟市立染河内小学校跡地に移転し本格開校する。

また、即戦力となる人材に対して給付金を交付する。

兵庫県立森林大学校運営費	51,982千円
緑の青年就業準備給付金	41,337千円

#### (2) 林業事業体の育成・確保

収益性の高い低コスト林業経営モデルの確立に向け、県立森林大学校研修科において機械科コースや森林経営コースなど高度なカリキュラムを本格実施し、林業事業体における森林施業プランナー、現場技能者等の能力を高めるとともに、林業労働者の就労環境の改善、労働安全衛生の向上を

図る。

兵庫県立森林大学校運営費	51,982千円(再掲)
林業労働力育成対策事業	1,148千円

### (3) 森林組合の育成

森林組合の事業活動を強化し、中核的担い手として育成するため、利用事業の展開や経営改善など自主的な取り組みへの支援、ガバナンス・コンプライアンス研修の実施、合併等の促進による経営基盤と役員研修や専門家派遣等による執行体制の強化を図る。

森林組合等経営基盤強化対策事業	2,226千円
森林組合機能強化資金貸付	400,000千円

### (4) 林業・木材産業の経営基盤の強化

林業・木材産業事業者に対して、低利・無利子の資金を融通することにより、林業及び木材産業の健全な発展、木材生産及び流通の合理化の促進を図る。

林業・木材産業改善資金貸付金	150,000千円
林業振興資金利子補給事業	569千円
木材産業等高度化推進事業	600,024千円
県産木材利用促進特別融資事業（製材用原木の取扱に係る運転資金）	100,000千円（再掲）

### 3 県産木材の供給体制の整備と利用拡大

#### (1) 県産木材の供給体制の整備

品質向上や供給体制の確立に向けた木材乾燥機など木材加工流通施設の整備により、県産木材の品質向上や供給体制の整備を図る。

林業構造改善事業	55,660千円の内数
県産木材供給体制整備事業	500千円

#### (2) 「ひょうごの木」利用拡大

##### ① 公共施設等の木造・木質化の推進

展示効果が見込める公共施設や民間施設での木造化、木質化を進めるとともに、公共土木工事での県産木材の利用を進める。

林業構造改善事業	55,660千円の内数
----------	-------------

##### ② 県産木材を使用した住宅の建設促進

工務店グループ「ひょうご木の匠の会」による県民向け住宅展示・相談会の開催を支援するとともに、本県独自の長期固定で低利な融資制度の活用により、県産木材の利用意義のPRと県産木造住宅の建築促進を図る。

【新】「ひょうごの木」利用拡大事業	5,020千円の内数
-------------------	------------

県産木材利用木造住宅特別融資事業 TajimaTAPOS技術を活用した住宅への融

資額の拡充(H28～)	26,568,590千円
県産木材利用住宅建設促進事業	1,620千円

### ③ 県産木材の新たな用途開拓

内装材やフローリング、土木工用合板など、新たな分野での製品開発を推進し、県産木材の新たな用途開拓を進めるとともに、防火地域等への県産木材の利用拡大を図るため、耐火性を高めるような加工方法や部材の開発などの調査研究を進めていく。

【新】「ひょうごの木」利用拡大事業	5,020千円の内数
技術を活かした県産木材製品開発推進事業	4,717千円

### ④ 県産木材の利用意識の醸成

県産木材を使用した木製学習机を提案するほか幼稚園・保育園等での「木育キャラバン」を実施するとともに、住宅建築を検討している県民を対象に、山での伐採作業から製材所での加工の様子、このような県産木材を使った木造住宅の現地見学を通じて、県産木材の利用意識の醸成を図る。

【新】「ひょうごの木」利用拡大事業	5,020千円の内数
暮らしの中に木材を取り入れる運動推進事業	1,120千円
(内訳) 木製用品利用拡大	270千円
木育キャラバン	850千円

### ⑤ 木質バイオマスの利用促進

未利用間伐材等の収集機械、チップ加工施設、木質資源利用ボイラー施設導入のほか、未利用材を仕分け・ストックする山土場整備、購入資金等に対して支援する。また、燃料用材の安定供給対策として、間伐に加え、主伐を進めていくため、主伐から植林までを一連の作業として効率的に実施する、主伐・再造林の低コストモデルの検討を進める。

バイオマスヤード整備事業	3,600千円
林業構造改善事業	55,660千円の内数
県産木材利用促進特別融資事業	
(バイオマス燃料用材の取扱に係る運転資金)	100,000千円(再掲)

### ⑥ CLT活用型先駆的モデル建築の推進

これまで県産木材が使われなかった中高層建築物において、新たな県産木材の需要拡大を図るため、都市部の防火地域にある兵庫県林業会館のCLTを活用した建替を支援(H31.1完成予定)する。

CLT活用型先駆的モデル建築物支援事業	40,000千円
---------------------	----------

平成30年度 林務課 主な事業 当初予算額
31,690,015千円 (対前年度比100.9%)
+補正 32,025,030千円 (対前年度比 99.8%)

## 平成30年度 豊かな森づくり課 予算の概要

県民共通の財産である森林の機能回復を社会全体で進めるため、平成14年度から「新ひょうごの森づくり」を推進しています。

また、特に森林の持つ防災機能強化を早期・確実に進めるために「県民緑税」を活用した「災害に強い森づくり」にも取り組んでいきます。

さらに、森林の保全・管理、森林病虫害被害対策にも取り組み、県民の安全・安心な暮らしを守る「生活を豊かにする森づくり」を促進します。

### 1 新ひょうごの森づくり・第2期対策の推進

森林の持つ公益的機能の高度発揮と、本来の経済林としての再生を進めるため、「公的関与による森林管理の徹底」「多様な担い手による森づくり活動の推進」を基本方針とする新ひょうごの森づくりの第2期対策（平成24～33年）を推進している。

#### (1) 森林管理100%作戦

間伐が必要な60年生以下のスギ・ヒノキ人工林について、国の公共造林事業による間伐及び作業道開設の補助残額を県・市町が連携して公的負担を行い森林管理の徹底を図るとともに、平成30年度からは集落ぐるみで取り組む所有者や境界の明確化等を支援し、条件不利地の間伐を推進する。

- ・「森林管理100%作戦」推進事業 86,724千円  
[間伐：6,200ha 作業道：70km]
- ・暮らしを支える森づくり事業 22,550千円

#### (2) 里山林の再生

地域住民等自らが行う森林整備活動に対して、森林・山村多面的機能発揮対策交付金を活用した支援により健全な里山林への誘導を図る。

- ・住民参画型里山林再生事業[280ha] 8,925千円

#### (3) 県民総参加の森づくり推進

県民に森林への関心や保全の大切さを普及し、さらに森林ボランティアの育成や各ボランティア団体における次代のリーダーを養成することにより、県民総参加の森づくりを推進する。

- ・「ひょうご森のまつり」の開催 1,000千円
- ・森林ボランティア・リーダー養成講座の開催 1,000千円

#### (4) 企業の森づくり活動の推進

企業や団体等が社会貢献活動の一環として行う森林保全活動を支援するため、(公社)兵庫県緑

化推進協会を通じて“多様な担い手による森づくり”を推進する。

- ・年間活動計画の作成や活動内容の指導及びホームページを活用した普及啓発等 1,513千円

#### (5) 森林への理解と関心を高める普及啓発

森の大切さや森林整備の重要性について、子どもから大人まで広く県民の理解と関心を高めるため、森づくり活動などを体験する参加型イベントの実施や森林環境教育を進めるとともに、地元と都市住民の交流の場、親子・家族が身近に自然と触れあえる場を提供する。

- ・三木山森林公園管理運営事業 104,475千円
- ・ふるさとの森公園管理運営事業[6公園] 172,115千円

### 2 県有環境林の管理

乱開発の抑制等に貢献してきた先行取得用地等について、森林の公益的機能に着目し、県有環境林として適切な管理を行う。

- ・県有環境林管理事業 46,994千円

### 3 災害に強い森づくり・第3期対策の推進

第3期対策では、第2期対策の枠組は継続する一方、「緊急防災林整備（溪流対策）」の対象箇所への拡充や「都市山防災林整備」などを新たに加えるほか、面積要件を緩和するなどにより地域の実情に応じた事業を展開している。平成24年度からは、国の公共造林事業等を活用した「広葉樹林化促進パイロット事業」を推進している。併せて、平成30年度からは「野生動物共生林整備」において、奥地人工林の広葉樹林化を進めることとしている。

#### (1) 県民緑税充当事業 第3期対策（H28～32年度）

- ・緊急防災林整備 648,957千円  
[斜面对策：900ha、溪流対策：調査箇所19箇所、森林整備19箇所]



土留工による表面浸食防止



簡易流木止め施設

- ・里山防災林整備 508,000千円  
[基本計画調査200ha、整備200ha]
- ・針葉樹林と広葉樹林の混交整備 290,000千円

[計画調査設計200ha、作業道開設217ha、広葉樹植栽183ha]

- ・野生動物共生林整備 317,205千円  
[基本計画調査350ha、森林整備388ha]
- ・住民参画型森林整備 25,500千円  
[森林整備20ha]
- ・都市山防災林整備 60,000千円  
[基本計画調査40ha、森林整備40ha]

#### (2) 広葉樹林化促進パイロット事業（H24～33年度）

奥地林など収益性が低く伐採が進まない高齢人工林を小面積で伐採し、跡地に広葉樹を植栽することに加え、平成29年度からは、下刈、防護柵補修、補植を拡充して植栽地の維持管理を行い、山地災害を防止するとともに野生動物の生息環境に適した広葉樹林へ誘導する。

- ・広葉樹林化促進パイロット事業 10,021千円  
[更新伐17ha、作業道開設1.7km等]

※造林事業の国補助残を県・市町が連携し公的負担

### 4 森林の保全・管理

#### (1) 保安林の指導等

治山事業施行予定地などの保安林指定を進めるとともに、公益的機能の維持・増進に資する保安林の森林施業の確保、標識設置や伐採等の行為制限により保安林の適正な管理、保全を図る。

- ・保安林等整備管理費 13,633千円

#### (2) 無秩序な開発行為の規制

森林が持つ公益的機能を確保するため、地域森林計画対象森林における、無秩序な開発行為を規制し、森林の適正な利用を図る。

- ・林地開発許可制度実施費 1,990千円

#### (3) 森林の保全

保安林や林野火災の危険性の高い森林において、無許可の開発行為等の早期発見、林野火災の予防啓発等を目的として「森づくり指導巡視事務嘱託員」を県民局・県民センターに配置し、森林の保



土砂崩壊防備・保健保安林（神戸市中央区）



森づくり指導巡視事務嘱託員活動（入山者への火気取扱注意喚起）

全と管理を行う。

- ・新ひょうごの森指導巡視事業 8,581千円

### 5 森林病虫害被害対策

#### (1) 松くい虫被害対策

- ① 保安林等の公益的機能の高い松林や地域経済上重要な松林を防除区域と定め、特別防除、地上散布、樹幹注入等の予防対策と、伐倒駆除や造林事業（衛生伐）の駆除対策を組み合わせ、松林機能の保全を図る。また、被害を受けにくい松林を造成するため、抵抗性マツ『ひょうご元気松』10万本植栽事業を継続実施する。

#### ② 環境に配慮した駆除対策

農薬使用を軽減するため、被害木の搬出が可能な箇所については、伐採後に搬出した後、破碎・焼却により殺虫する特別伐倒駆除を推進する（対象区域：高度公益機能森林）。

#### ③ 抵抗性マツの植栽

被害を受けにくい松林を造成するため、抵抗性マツ『ひょうご元気松』10万本植栽事業を継続して実施する。

- ・予防対策（特別防除、地上散布、樹幹注入） 32,861千円

- ・駆除対策（伐倒駆除、特別伐倒駆除） 29,367千円
- ・ひょうご元気松10万本植栽事業 1,080千円
- ・森林病虫害防除予防推進費（薬剤防除自然環境等影響調査ほか） 2,138千円
- ・県単独松くい虫被害等景観対策事業 10,573千円

#### (2) ナラ枯れ対策

県南東部で被害が拡大しているナラ枯れは、コナラの場合で5～7割は生き残り、被害発生から終息までの期間は5～10年程度とされているが、枯損木の倒伏による人や車への被害及び景観の悪化等が懸念される。このため被害先端地の市町を中心に、里山の散策道沿いなど不特定の県民が立ち入る森林や地域資源として景観が重視される森林で重点的な駆除対策を実施し、二次被害の防止を図る。

- ・その他法定病虫害駆除事業（ナラ枯れ被害対策） 46,136千円

（伐倒駆除（くん蒸）、噴霧剤処理（粘着剤塗布）、樹幹注入、粘着シート）

平成30年度 豊かな森づくり課 主な事業 当初予算額  
16,031,639千円（対前年度比105.1%）

平成30年度 鳥獣対策課  
(野生鳥獣対策関連) 予算の概要

野生動物被害防止総合対策の推進

野生動物による農林業被害等を減少させるため、地域の実状に応じた個体数管理、被害管理、生息地管理を総合的・計画的に進めるとともに、捕獲したシカ等の有効活用を図る。また、近年、人身事故が発生したツキノワグマの出没被害対策やカワウの被害対策を強化するほか、有害鳥獣捕獲等の担い手となる狩猟者の確保・育成を図る。

1 シカ・イノシシ被害対策の推進

市町による有害捕獲に加え、県が直接捕獲を行う指定管理鳥獣捕獲等事業、県捕獲専門家チームの派遣、狩猟期中の捕獲報償金の拡充等により、シカ4.6万頭、イノシシ2万頭を目標に捕獲を推進するとともに、防護柵設置等の対策を進める。

(1) 捕獲の拡大	419,296千円
・シカ有害捕獲促進支援事業	50,255千円
・シカ有害捕獲専任班支援事業	15,750千円
・狩猟期シカ捕獲拡大事業	187,500千円
・イノシシ生活被害防止対策等	2,736千円
・狩猟期イノシシ捕獲拡大事業	84,000千円
・捕獲専門家チームによる有害捕獲	33,655千円
・指定管理鳥獣捕獲等事業	24,000千円
・ストップ・ザ・獣害対策事業	21,400千円



【ICTを利用した大型自動捕獲オリ】

(2) 被害防止総合対策	751,823千円
・鳥獣被害防止総合対策事業	701,823千円
・野生動物防護柵集落連携設置事業	50,000千円

(3) シカ丸ごと1頭活用大作戦	174,511千円
地域資源としての有効活用を図るため、シカ肉処理加工施設の整備、搬入・回収への支援を行うとともに、シカ肉等の需要拡大を推進する。	



【シカ肉料理等PRイベント「文鹿祭」】

2 ツキノワグマ出没被害対策強化	10,965千円
生息数が増加しているツキノワグマの集落への出没や人身事故の発生を防止するため、集落周辺部での有害捕獲の強化や追い払い等を実施する。	

3 アライグマ等被害対策強化	12,664千円
捕獲及び安楽死処分の支援をはじめ、都市住民を対象に、捕獲指導員による技術指導の実施やわな購入を支援する。	
・特定外来生物被害対策事業	10,500千円
・住民参加型のアライグマ・ヌートリア対策事業	2,164千円

4 カワウ被害対策の強化	924千円
県内水面漁連・県猟友会・専門家等で構成するカワウ被害対策協議会の運営、カワウハンティングチームによる捕獲、繁殖抑制効果の高い擬卵置換等を支援する。	



【カワウ擬卵置換】

5 狩猟後継者の確保・育成	15,940千円
有害鳥獣捕獲に携わる人材の育成及び捕獲体制の強化等に取り組む。	
・有害鳥獣捕獲狩猟者育成プロジェクト	13,558千円
・狩猟後継者確保育成事業	640千円
・狩猟者育成センター(仮称)整備の検討	1,742千円

平成30年度 鳥獣対策課  
・野生鳥獣対策関連予算額 1,517,934千円  
(対前年度比 125.4%)

※イラスト(シカ):兵庫県森林動物研究センター提供

平成30年度 治山課  
予算の概要

治山事業については、近年、局地的大雨が増加傾向にあり土砂・流木災害が頻発していることから、治山ダムの整備や山腹崩壊地の復旧等、ハード対策に積極的に取り組む。

特に、「第3次山地防災・土砂災害対策計画」に基づき、人家等に直接被害を与える恐れのある溪流、人工林率の高い谷筋や0次谷となっている山腹斜面のうち流木災害や崩壊の恐れのある箇所に対して、治山ダム等の整備を進める。また、過密化した保安林での森林整備を行い、森林の持つ多面的機能の維持向上を図る。



治山ダムが流木・土砂を捕捉(丹波市)

ソフト対策では、山地災害危険地区の情報発信や山地防災教室の開催など、県民の避難行動に役立つ情報を提供する。また、地域住民と協働して避難マニュアル等の作成を行い地域の防災力の向上を図り、総合的な山地防災・減災対策を推進する。

林道事業については、「新ひょうご林内路網1,000km整備プラン」に基づき、森林整備や木材生産の基盤となる森林基幹道及び森林管理道、林業専用道の整備を推進する。また、効率的な木材搬出等を推進するため、基幹道沿線において路網拠点施設を整備を行う。



森林基幹道「笠形線」路網拠点林道の整備状況

1 治山対策の推進  
(1) 第3次山地防災・土砂災害対策計画(平成30~35年度)の着実な推進

(第3次山地防災・土砂災害対策計画)

区分	着手箇所数(箇所)
人家等保全対策	438
流木・土砂流防止対策	240
計	678

(2) 県産木材を使用した型枠用合板への転換  
平成30年度からすべての治山・林道工事について、木製型枠パネルから県産木材を使用した型枠用合板を適用する。治山・林道工事で使用される木製構造物においても、県産木材の利用促進を図る。

(3) 「新ひょうごの森づくり」第2期計画の推進  
森林の過密化により林床植生が消滅し、表土流出による等、機能が低下した保安林を対象に、本数調整伐等の森林整備を推進する。

【治山事業費】

公共治山事業費	3,990,000千円
治山施設災害復旧事業費	10,000千円
県単独治山事業費	267,386千円
県単独緊急防災事業費	1,380,000千円
合計	5,647,386千円

2 林道整備の促進

- (1) 県営林道の開設の促進  
林内路網の骨格となる森林基幹道2路線(須留ヶ峰線、千ヶ峰・三国岳線)、森林管理道1路線(前地・カンカケ線)の開設を計画的に進める。
- (2) 県産木材安定供給のための路網拠点整備  
林道から森林作業道等を接続する支線林道や高性能林業機械が効率的に作業できる作業用地を設置する路網拠点を4箇所整備する。
- (3) 支線林道の整備(路網拠点林道整備事業の拡充)  
これまでの路網拠点林道整備事業を拡充し、既設林道と作業道をつなぐトラック道の延伸を図るため、国庫補助事業による林業専用道の整備を推進する。平成30年度は、神河町猪篠・大山地区で林業専用道「神河2号線」の整備を予定している。
- (4) 林道の機能強化  
車両の安全な通行を確保するため、巡視や側溝清掃等の維持管理や法面保護工等の改良工事を実施するほか、個別施設計画に基づく施設の保全整備を推進する。
- (5) 市町営林道への支援  
災害発生時の迅速な対応や林道技術者の育成を目指し、市町職員を対象とした林道施設災害復旧事業基礎研修と実務研修を開催する。

【林道事業費】

公共林道事業費	615,200千円
公共林道助成費	27,290千円
公共林道事業費(管理費)	50,923千円
林道施設災害復旧事業費	140,000千円
県単独林道事業費	340,400千円
合計	1,173,813千円

3 里山防災林整備(災害に強い森づくり)  
第3期計画として集落裏山にある里山林の山地防災機能向上のため、危険木除去等の森林整備や丸太柵工等の簡易防災施設の整備を実施する。  
(予算額等は豊かな森づくり課予算の概要参照)

平成30年度 治山課 主な事業 当初予算額	6,821,199千円(対前年度比98.9%)
-----------------------	-------------------------

### 西播磨地域における森林情報デジタル化の取組

西播磨県民局 光都農林振興事務所

#### 1 はじめに

現在、様々な分野でICTを活用した技術革新が進むなか、森林・林業の現場においても、デジタルカメラやデジタルコンパス、ドローンといった機器による森林情報の収集が進み、補助申請等に関するデータも電子ファイルで処理されており、これらのデジタルデータはGISを使って一元的に管理することや地形データ、衛星画像等と組み合わせることにより業務の効率化や新たな森林情報の利活用を図ることが求められている。

#### 2 現状と課題

管内の林業事業体を対象としたアンケートによると、回答のあった全ての事業体でデジタルコンパスによる測量を実施し、作図ソフトで図化を行っており、一部の事業体ではドローンも保有しているが、得られた測量図面や画像等の成果物は紙ベースで管理され、間伐等の施業履歴データ（実施地の

位置、林況、施業内容、所有者情報等）との一元的な管理はなされていない。

また、作業道等の開設にあたっては適切なルート設定を効率的に行うために、近年、整備が進むデジタル標高データ（DEM）をGISソフトで加工処理して作成される傾斜区分図や微地形図を活用することも求められている。

森林情報の一元的な管理やDEMデータ、衛星画像等を活用するためにはGISソフトが必要であるが、市販されているソフトは高価なものや多機能のものが多く、事業体への導入が進まない一因となっている。

このため、無償で利用出来るGISソフト「QGIS」を用いて、測量成果や施業履歴の取り込みや標高データの加工処理に特化した研修を実施し、事業体におけるGISによる森林情報デジタル化を目指した研修に取り組むこととなった。

#### 3 平成29年度の取組

##### (1) 森林デジタル化研修

管内の事業体を対象に、QGISの起動、背景地図の表示（国土地理院地図、グーグルマップ）、測量成果のデジタル化（野帳データのポリゴン化、測量図面の取り込み）、ポリゴンへの属性データ（施業履歴等）の付加、施業履歴データによるデータベース処理（抽出等）、座標付きデジカメ画像の取り込みを実施した。

##### (2) 標高データを活用した作業路開設研修

森林林業技術センターの研修と連携して、標高データをQGISで処理加工して作成した等高線図、傾斜区分図、微地形図を用いて壊れにくいルート選定や資源情報（樹種、材積）との組み合わせによる採算性の高いルート選定への活用法を紹介した。

##### 4 今後の取組

研修を受講した事業体のなかからGISを用いて測量成果や施業履歴のデジタル化に取り組む事業体も現れており、今後は、ポリゴンに付加する属性データの検討（搬出材積や材質等のデータ項目の追加や項目の統一）を行い、地域での森林情報

データベースの構築を目指す。

また、GISを用いて事前に机上で路線線の決定や土量の試算等を行い、現地踏査の省力化を目指す。

さらに、ドローン画像の解析により、林況データ（樹種、樹高、立木密度）や施業データ（施業位置、施業面積等）を把握し、森林情報の高度化、データ取得の効率化に取り組む。



GISに取り込まれた施業履歴



GISを操作する研修生

### 兵庫県立森林大学校研修事業の実施について

兵庫県立森林大学校

県立森林大学校では、林業に従事している方や一般の方を対象に各種研修を行っています。今秋の校舍移転による本格開校を機に、高度化コースの本格実施など職種やキャリアに応じた総合的、体系的な研修に努めます。

#### 平成30年度実施内容

##### ○路網作設（基本編、応用編）

##### ○架線系林業機械

##### ○木材利用 ○森林情報

などを実施します。また、一般の方を対象とした森林セラピー体験会、ジビエ料理教室、ツリークライミング等も企画します。詳細が決定しだい県HP等でお知らせし、募集を開始します。なお、昨年度は以下のとおり実施しました。

##### ① 架線系林業機械作業システム

12月13日、14日（2日間）

架線系作業システムの特徴と国内の導入事例について、高知県立森林技術センター山崎敏彦氏や、海外製タワーヤードを用いて社有林の経営を行う日本土地山林(株)岡望次長からご講義いただきました。翌日は鳥取県



搬出状況の見学

##### ② 先進事例に学ぶ再生可能エネルギー事業と地域森林資源活用

3月6日、7日（2日間）

地域におけるバイオマス活用先進地である高山市での取組と事業実施の際の問題点等について高山バイオマス研究所谷淵庸次所長からご講義いただきました。

また、岡山県西栗倉村にて「百年の森構想」関連事業と再

##### ③ ジビエ料理教室

生可能エネルギー活用の内容について学びました。村全体が危機感を持って主体的に取り組む姿勢や、地域資源を地域で活用し、お金がまわる仕組みなど、地域資源を生かすヒントが得られました。

シカ肉料理研究家の林真理氏に、シカ肉の家庭料理の調理を教わりました。試食後、シカ肉の衛生的な取扱い等について県森林動物研究センターの専門員から講義いただきました。美味しく調理するには衛生的に処理された肉を選ぶこと、筋膜をきちんと取り除くこと等に留意する必要があります。シカ利用の歴史と文化なども紹介があり、シカ肉をより身近に感じる機会となりました。



シカ肉調理の実演

### 兵庫県立森林大学校 Facebookページ紹介

県立森林大学校では、民間ソーシャルメディア（SNS）Facebookに森林大学校のページを作成し、毎日の授業の様子などを発信しています。URLは、<http://www.facebook.com/hyogoshinrindai> スマートフォン、パソコンなどからご覧いただけます。

Facebookのアカウントをお持ちの方はFacebookにログインして森林大学校を検索していただければすぐにページが表示されます。アカウントのない方は兵庫県ホームページの森林大学校の紹介のリンクから開くか、検索サイトで森林大学校を検索、あるいは左記のQRコードからアクセスしてください。スマートフォンなどで学校の授業風景をご覧いただくことも、皆さまのフォローと「いいね」のクリックをお待ちしています。



Facebook QRコード

# 支線林道の整備（路網拠点林道整備事業の拡充）

農政環境部農林水産局治山課治山林道班

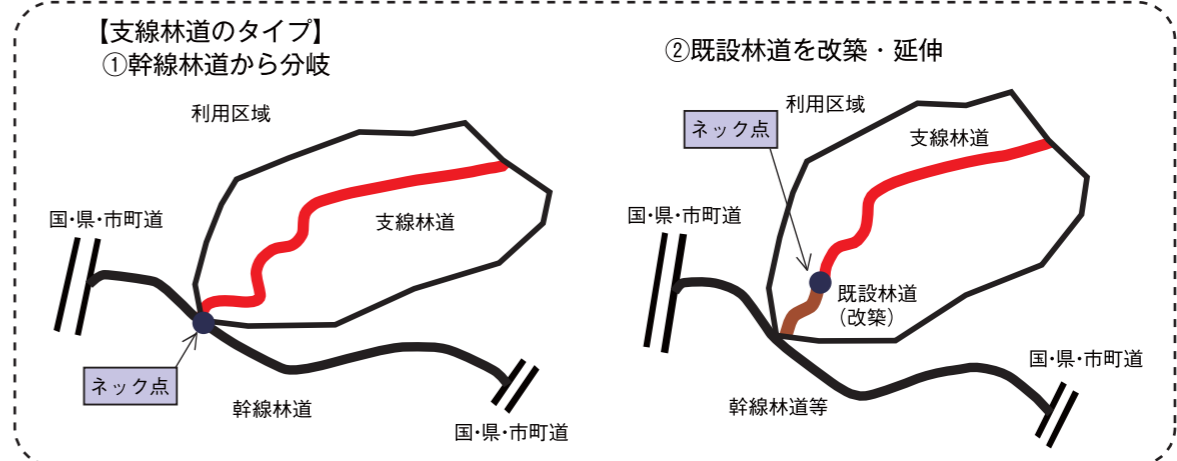
## 1 はじめに

本県では、県産木材の安定的な供給と、車両系システムに対応した効率的な木材搬出を促進するため、平成18年度から平成27年度の10年間で路網拠点林道整備事業としてI期計画により42箇所を平成28年度から平成33年度の6年間でII期計画として作業用地など路網拠点施設の整備を24箇所整備すべく事業を実施中です。

そのような中実施地は、今後一層増加することが懸念されるとともに、森林への進入が困難となるネック点の解消や市町等の技術者の不足も課題となってきました。これらの諸課題に対応するため平成30年度からネック点の解消と森林施業地への大型トラック（10t）の進入を容易にするため、路網拠点林道整備事業を拡充し支線林道の整備を一層進めることとしました。

## 2 事業内容

平成30年度からは、対象とする林道を従前の森林基幹道、森林管理道に加えて、国・県・市町道に



接続する林道や連絡線形林道に接続する林道であれば支線林道整備の対象とするなど事業の対象とする林道を大幅に拡大することとしました。これにより多くの林道から支線林道の整備が可能となります。当面は振興山村地域で基幹道路の指定を受けた路線については、県営で林業専用道に係る国庫補助事業を活用し、開設工事を（整備後は市町で管理）行っていくこととしています。

## 3 今後の事業の進め方

当事業は、既設の林道から支線林道の開設を促進することで、低コスト原木供給団地の設定を促進し、より効率的な木材の搬出が可能となることや恒久的な林道整備が行われることで、伐採・利用・植林・保育といった林業生産サイクルを実現する資源循環型林業の構築を目指すものです。今後はより効果的な事業実施箇所を選定していくこととしていますので、事業要望調査と事業の推進についてご理解とご協力をお願いいたします。

# 平成30年度狩猟免許試験のご案内

兵庫県では、今年度も次のとおり狩猟免許試験を実施します。多くの方が免許を取得されますよう、ご案内いたします。

## 【狩猟免許とは】

狩猟期間中にシカやイノシシなどの狩猟鳥獣を捕獲するのに必要な資格です。

また、県や市町の許可を受けて実施する有害鳥獣捕獲にも原則的に必要です。

## 【狩猟の楽しみと公益性】

狩猟は、ハンティングや料理を楽しむという魅力のほか、農林業被害を与える野生動物の生息頭数を適正に管理するという公益性も兼ね備えています。

## 【免許の種類】

- ・ 網猟（主に鳥類）
- ・ わな猟（獣類のみ）
- ・ 第一種銃猟（装薬銃、空気銃）
- ・ 第二種銃猟（空気銃）

## 【試験の日程と場所】

- 1回目  
 ◆ 申込期間  
 6月4日(月)～6月22日(金)  
 ◆ 知識・適性・技能試験日及び場所  
 7月20日(金) 姫路市  
 7月28日(土) 神戸市



- 8月4日(土) 淡路市  
 8月11日(土) 養父市  
 ※淡路市・養父市は「網猟試験」と「わな猟試験」のみ実施

## 2回目

- ◆ 申込期間  
 7月23日(月)～8月14日(火)  
 ◆ 知識・適性・技能試験日及び場所  
 9月3日(月) 神戸市  
 9月8日(土) 三田市  
 9月15日(土) 姫路市

## 【お問い合わせ先】

各県民局・県民センター森林課又は農政環境部鳥獣対策課  
 (〇七八一三六一三四六三)

## 初心者講習会のご案内

狩猟免許試験を受験される方を対象に、一般社団法人兵庫県猟友会が次の日程で、知識・技能に関する講習会を実施する予定です。

- 6月2日(土)、6月9日(土)、6月16日(土)、6月23日(土)、8月4日(土)、8月18日(土)  
 【お問い合わせ先】  
 (一社)兵庫県猟友会  
 (〇七八一三六一八二二七)

# 平成30年度の技能講習会等のご案内

林業・木材製造業労働災害防止協会 兵庫県支部

## 1 はじめに

当支部では、林業・木材製造業の労働災害防止のため、労働安全衛生法に定められている林業・木材製造業の作業の従事に必要な技能講習会等々次のおり開催しますので、関係する方々の受講を是非お願いします。

## 2 実施計画

区分	名称	実施年月日	場所
技能講習	木材加工用機械作業主任者	30年 7月12日～13日	姫路労働会館(姫路市北条)
	はい作業主任者	30年 8月 9日～10日	
特別教育	伐木等(大径木等)「チェーンソー作業従事者特別教育」	30年 5月17日～18日	中はりま森林組合 会議室(神崎郡神河町)
		30年 7月26日～27日	
		30年10月11日～12日	
		30年12月13日～14日	
安全衛生教育	刈払機取扱作業安全衛生教育	30年 6月 1日	中はりま森林組合 会議室(神崎郡神河町)
		30年 9月28日	
		30年11月16日	
		31年 1月18日	三木山森林公園(三木市福井)

※講習会のご案内は開催日1ヶ月前を目処にWEBサイト上などで行います。  
 HPアドレス: <http://www1.odn.ne.jp/hyogomokuren/rinsaibou/>  
 ※開催予定の講習会は、都合により日程等を変更する場合があります。

## 3 お問い合わせ先・申込先

〒650-0013 神戸市中央区花隈町12番6号  
 林業・木材製造業労働災害防止協会 兵庫県支部  
 (兵庫県木材業協同組合連合会内)  
 ☎078-371-0607

## 森林整備・造園・法面・土木・設計施工管理

緑と笑顔が私たちの基本です

# 株式会社 西村風昇園

豊岡本社 〒688-0051 兵庫県豊岡市九日市上町846-1  
 TEL(0796)23-5611 FAX(0796)22-4529  
 URL[<http://fuukouen.com>] E-mail[[seifuu@skyblue.ocn.ne.jp](mailto:seifuu@skyblue.ocn.ne.jp)]

・姫路本店  
 ・神戸営業所

# エムシー緑化の 林業用薬剤

ススキ ササ地に

松枯防止樹幹注入剤

**フレック**® 粒剤10

**マツガード**®

発売元 **正和商事株式会社**

大阪市中央区道修町1丁目3番4号 〒541-0045  
TEL 06 (6203) 4541 FAX 06 (6203) 4347

## 緑を育み水をつくる水源林造成事業



国立研究開発法人森林研究・整備機構  
森林整備センター近畿北陸整備局

神戸水源林整備事務所

〒650-0024 神戸市中央区海岸通1-2-19 東洋ビル  
TEL(078)571-0133 FAX(078)571-0135

兵庫県水源林造林協議会

〒650-0013 神戸市中央区花隈町12-6 第三大知ビル  
TEL/FAX(078)351-3341



土・木・緑・そして人

とりもどそう 人にやさしい環境

株式会社

**グリーン興産**

〒671-4141 兵庫県宍粟市一宮町東河内1003

Tel 0790(72)1553 Fax 0790(72)2327

URL <http://www.greenkousan.co.jp>

E-mail: info@greenkousan.co.jp

みどりの集い.com あなたと共に 未来へつなぐ 森林づくり

## 新緑の氷ノ山林道の自然観察ウォークに参加しませんか

対象：県内にお住まいの方で、8：00土地改良会館前(元町駅から徒歩5分)集合できる方

日時：平成30年5月29日(火) 定員：40名(定員を超えた場合は抽選)

参加費用：2,000円(バス代、昼弁当代、資料代、保険料等)

申込方法：往復はがきに、住所、氏名、年齢、性別、電話番号を記入  
1通で2名まで申込可(2名の必要事項記載の事、重複不可)

申込締切：平成30年5月1日(火) 必着

問い合わせ申込先：(一社) 兵庫県治山林道協会

〒650-0012 神戸市中央区北長狭通5-5-12 兵庫県土地改良会館3階

TEL:078-371-0210 FAX:078-371-6632

[兵庫県治山林道協会](#) [検索](#)



## “治山・林道測量”

は経験と実績のある

株式会社 **石原測量コンサルタント**

国土交通省登録第24891号  
県知事許可(般-27)第461481号

本社 兵庫県宍粟市山崎町 船元250-1

Tel (0790) 63-1377

Fax (0790) 63-1398

営業所 兵庫県姫路市夢前町助野1078-3

Tel (079) 336-1418



550XP-JP/XPG-JP

レッドトッド・デザイン賞2013  
ベスト・オブ・ベスト受賞製品



■排気量：50.1cm<sup>3</sup>  
■出力：2.8KW

AutoTune

■質量：4.9/5.1kg(XPG)

## 本当の価値が分かる方へ!

安全と作業効率を追求し続けるハスクバーナは、プロが認めるチェーンソーの最高峰です。革新的な技術を融合し、これまで以上のパワーでさらなる軽量化に成功した500シリーズをぜひお試しください。

愛林興業株式会社

本社 姫路市飾磨区恵美酒294-3 TEL (079) 234-8181番(代)

神崎店 神崎郡神河町吉富1409-2 TEL (0790) 32-0570番

但馬店 養父市上野1357 TEL (079) 664-2101番

## ふるさとの木「兵庫県産木材」おすすめします

当連合会では、公共施設や公共土木の工事、地域型住宅グリーン化事業等で使用される兵庫県産木材の証明、兵庫県産木材利用木造住宅特別融資制度の申請に必要な県産木材(ひょうご県産認証木材製品)使用住宅証明書の発行を行っています。

兵庫県産木材は、当連合会に設置している県産木材供給部会の部会員が積極的に供給しております。詳しくは、当連合会のホームページをご覧ください。

兵庫県木材業協同組合連合会

〒650-0013 神戸市中央区花隈町12番6号 第三大知ビル5階

Tel : 078-371-0607 Fax : 078-371-7662 URL : <http://www1.odn.ne.jp/hyogomokuren/>

## 自己流で使っていませんか?

チェーンソー・刈払機の安全講習のご案内

講習を受けて、正しい使い方を学びましょう!

チェーンソー(大径木等伐木) 作業従事者特別教育

H30.5.17~18(予定)

H30.7.26~27(予定)

中はりま森林組合

(神河町寺前)

刈払機取扱作業者 安全衛生教育

H30.6.1(予定)

H30.9.28(予定)

中はりま森林組合

(神河町寺前)

林業・木材製造業労働災害防止協会 兵庫県支部



## 緑の募金にご協力をお願いします

緑の募金は地域の緑化活動への助成やボランティア団体が行う森づくりへの助成に活用しています。ご協力いただく募金は、金額の多少を問わず次の金融機関へ振込をお願いします。

ご寄付の方法

●郵便振込(手数料不要(協会負担))  
郵便の場合、公益社団法人兵庫県緑化推進協会に直接お問い合わせ下さい。専用の払込取扱票用紙をお送り致します。

●銀行振込(手数料必要)

口座：三井住友銀行 兵庫県庁出張所

普通 3198438

名義：公益社団法人 兵庫県緑化推進協会



多可町緑の少年団加美第1団による募金活動



公益社団法人 兵庫県緑化推進協会

〒650-0013 神戸市中央区花隈町12番6号

TEL 078 (341) 4070 FAX 078 (341) 4071

URL : <http://www.hyogo-green.net/>



# 兵庫の巨樹・巨木(25)

## ②常瀧寺の大イチョウの紹介

常瀧寺の大イチョウの住まいは、兵庫県丹波市青垣町大名草である。今の常瀧寺から作業道を登ること四〇分、スギ林に囲まれた中に、正に巨木の風格を漂わせ「俺はこの地の主である」と無言の言葉で語りかけているようである。

常瀧寺は養老二年(712)に法道仙人により開山され、大イチョウはその法道仙人によるお手植えと伝えられている。年を数えた証に、枝を折損して、地面に突き刺しそこから枝が出て数本が生えているように見える。イチョウ特有の乳頭も出ている。ただしこの木は雄の大イチョウである。



昭和29年植樹祭の記念物記念誌に掲載された常瀧寺の大イチョウ

主幹は幹周囲11・4m、樹高は30mあり、幹の上部は落雷か、寺が明智光秀に焼き討ちにあった傷か不明であるが、焼けた跡に炭化した傷が見られる。



正面で挨拶して迎えてくれる大イチョウ



山側からの姿

案内板には神奈川県にある鶴岡八幡宮の大イチョウ、俗に「隠れイチョウ」と呼ばれ、源実朝を暗殺した公暁が隠れていた大イチョウとあるが、鎌倉時代に人が隠れるぐらいの太木になるには当時三百年位の樹齢であったと思われる。その大イチョウを研究している先生の推察で、興味深いのは常瀧寺の大イチョウと遺伝子が全く同じであるということだ。おそらく常瀧寺の大イチョウをもらって挿し木したのではないかという仮説を唱えているが、まさに思いもよらぬ話で数千年の歴史のロマンに心が躍ると記されている。

ここで紹介するのは、佐藤征弥先生(徳島大学)が、巨樹のDNAを調べて、イチョウの伝来・伝藩がつかめるのではないかと研究され、DNAタイプの分布が紹介されている。結果、23タイプのDNAが存在し、その中で一番多い本数のタイプが【東日本1】というタイプで、その中に常瀧寺の大イチョウが含まれる。このタイプの中に鶴岡八幡宮のイチョウもあり、兵庫県では常瀧寺の大イチョウと佐用の大イチョウが含まれるとされている。

日本のイチョウに関しては、南北朝時代以前の記録は無く、すべて中国から持ち込まれたものと推察される。常瀧寺の大イチョウも法道仙人が持ち込んだと思われるが時代的に考えれば疑問が残る。イチョウは中国原産の裸子植物。世界古来の樹木の一つである。またイチョウ科植物は氷河期にほぼ絶滅し、イチョウは唯一現存する種であると言われている。落葉高木の雌雄異株であり、風媒花で1km程度離れていても受粉可能とされている。イチョウの雌木は精子による受精で種子を作る。イチョウ精子発見者は平瀬作五郎で、受精は精子によって行われる。

イチョウの中国からの日本伝藩は15世紀前期とされており、極めて成長の早い樹木である。条件さえよければ一〇〇年で幹周囲4mに到達する。

樹木医 橋本光政  
樹木医 宮田和男  
樹木医 塩見晋一

前号の「巨樹巨木(24)」記事に誤りがありましたので、お詫びして訂正いたします。

最下段の表中 6行目を訂正  
(誤) 西脇市 八千代町坂本  
(正) 多可郡多可町 八千代区坂本